

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	
期末配当金	毎年12月31日
中間配当金	毎年6月30日
	その他必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 (連絡先) 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行いますが、事故その他やむを得ない事由によりできない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載URL) https://www.tok.co.jp/company/public_notice.html
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	4186

ご注意

- 住所変更、単元未満株式（100株未満の株式）の買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、当社定款の規定により、支払開始日より満3年を経過いたしますとお受け取りいただけませんので、お早めに最寄りの三菱UFJ信託銀行本支店でお受け取りください。

株式に関するお手続きについて

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先	
	証券会社等の口座に記録された株式	特別口座に記録された株式
<ul style="list-style-type: none"> ■単元未満株式の買取・買増請求 ■住所・氏名等のご変更 ■配当金の受領方法の指定（注） ■マイナンバーに関するお届け・ご照会 	口座を開設されている証券会社等	左記の特別口座の口座管理機関
<ul style="list-style-type: none"> ■特別口座から一般口座への振替請求 		
<ul style="list-style-type: none"> ■支払期間経過後の配当金に関するご照会 ■郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ■株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	左記の株主名簿管理人	

(注) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として「株式数比例配分方式」はご選択いただけません。



IRメール配信を行っています。ぜひご登録ください。

<https://rims.tr.mufg.jp/?sn=4186> ▶▶▶

高品質な製品の供給能力を拡大

先端半導体の市場拡大に伴い、当社製品のさらなる高品質化および供給能力拡大を目的として、主力生産拠点である郡山工場（福島県郡山市）に新検査棟を建設しました。今後も中長期的な半導体市場の成長に対応するため、積極的な設備投資を実施し、高品質な製品を安定供給していきます。



健康経営宣言

従業員の安全と健康確保は事業活動を行う企業の社会的責任であり、全てのステークホルダーからの要請であるという認識のもと、「健康経営宣言」を策定しました。[tok中期計画2024]における人材戦略の一つとして健康経営をより一層推進してまいります。

tok 東京応化工業株式会社

〒211-0012 神奈川県川崎市中原区中丸子150番地
電話 044-435-3000 (代表)



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

第93期 中間報告書

2022年1月1日～2022年6月30日

豊かな未来、社会の期待に化学で応える
“The e-Material Global Company®”

tok 東京応化工業株式会社

0.000000001mから、
世界は深化する。



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの第93期第2四半期連結累計期間(2022年1月1日から2022年6月30日まで)の業績および今後の取り組みにつきましてご報告申し上げます。

代表取締役 取締役社長 **種市順昭**



Q1 当第2四半期における市場環境および業績について教えてください。

当上半期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響を受け、アジア地域の一部で経済活動が抑制されたものの、多くの地域で持ち直しの動きが続きました。

このような情勢の下、当社グループは、「豊かな未来、社会の期待に化学で応える『The e-Material Global Company®』」という経営ビジョンの下、2024年度を最終年度とする中期計画[tok中期計画2024]を始動させ(3ページで「事業

戦略)をご紹介します)、全社戦略を推進することで2030年に向けた長期ビジョン[TOK Vision 2030]の実現に取り組んでまいりました。

当上半期においては、5GやIoT等の普及に加えデータサーバー向けなどの旺盛な半導体需要が継続したことに加え、円安による為替効果がありました。このような市場環境を受けて、材料事業はアジア地域を中心にエレクトロニクス機能材料および高純度化学薬品の販売が好調に推移したことにより、売上高は前年同期に比べ大幅に増加しました。また、装置事業も受注済み装置の検収が進んだことにより、売上高は前年同期に比べ大幅に増加しました。この結果、売上

高は847億円(前年同期比30.7%増)となりました。

利益面においては、材料事業は高純度化学薬品の原材料価格の高騰に加え、生産量の増加に伴い人件費などの経費が増加しましたが、高付加価値製品である半導体用フォトレジストおよび高密度実装材料の販売が好調に推移したことや、販売価格の調整効果を受けた高純度化学薬品の販売も好調に推移したことにより、営業利益は前年同期に比べ48億円増益し、171億円(同39.0%増)となりました。また、装置事業も売上高の大幅増加に伴い2億円の営業利益となり、2015年3月期以来の黒字化を達成しました。この結果、営業利益は148億円(同54.7%増)、経常利益は153億円(同52.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は97億円(同51.9%増)となりました。

Q2 配当金については、いかがですか？

当期の中間配当金については、前期中間配当金62円から16円増配し、1株当たり78円とさせていただきます。

Q3 通期の見通しについて教えてください。

下半期は、当社グループの需要環境に大きな変化は見られていないものの、急速に進行しているインフレを背景に先行きの不透明な状況が予想されます。このような情勢の下、通期の業績は当上半期の業績が当初の予想を上回ったことや、今後の為替レートを円安方向へ見直すことにより当初の予想を上回る見込みであることから、業績予想を上方修正しました。

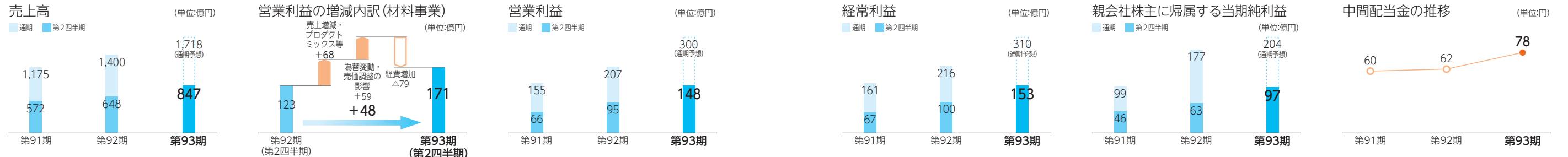
この結果、通期の売上高は前年に比べ317億円増加の1,718億円(前年比22.7%増)、営業利益は引き続き原材料価格の高騰や人件費などの経費増加の影響を受けつつも、高付加価値製品の販売増加や為替効果により増益基調が続くことで、前年に比べ92億円増益の300億円(同44.9%増)を予想しており、3期連続で売上高・営業利益ともに過去最高を更新する見込みです。

今後も、株主の皆様のご期待に応えられるようグループ一丸となって邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

▶ 当社のウェブサイトでは2022年12月期第2四半期決算説明会の模様をご覧ください。
[東京応化工業ウェブサイト](https://www.tok.co.jp/ir) ▶ [IR情報](#) ▶ [決算説明会ビデオ](#) <https://www.tok.co.jp/ir/movie>



財務ハイライト



「tok中期計画2024」の事業戦略

世界の半導体市場は、1980年代半ばから1990年代初頭にかけて日本が席巻しましたが、その後は米国、韓国、台湾がけん引し、近年では中国が勢いを増してきています。

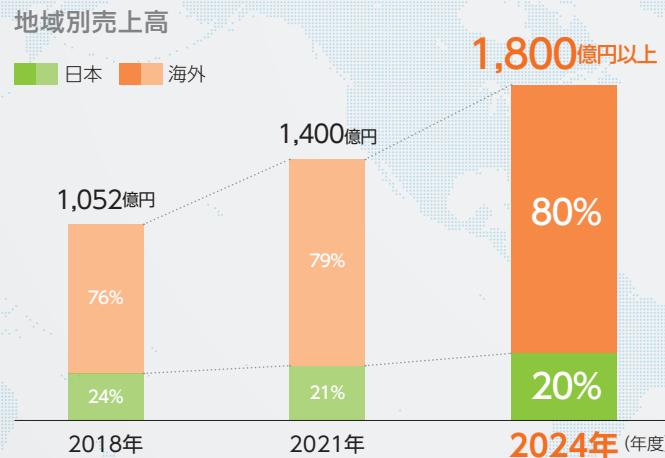
当社グループは、このような市場環境を踏まえて、お客様の高度なニーズに対して、よりの確かつスピーディーに応えていくために、世界の半導体市場をリードする米国、韓国、台湾、中国のお客様の近くに拠点を設立する「顧客密着戦略」を積極的に推進してきました。これが奏功し、海外売上高比率が80%近くを占めるまでに成長しました。「tok中期計画2024」(2022年度～2024年度)においては、営業・開発・製造の三位一体で「顧客密着戦略」を進化させ、お客様のニーズをより着実に捉え、さらに迅速な製品開発・製品提供を実現することで、お客様の期待に化学で応えていきます。



海外の市況 成長のけん引役はアジア

「tok中期計画2024」の最終年度である2024年の売上高は1,800億円以上を目指しています。売上高増加のけん引役は引き続き、韓国、台湾、中国を中心としたアジアとなる見込みです。当社グループは、e-Material*のリーディングカンパニーとして確固たる地位を確立するため、成長ドライバーである先端フォトレジストのグローバルシェア向上に取り組んでいきます。

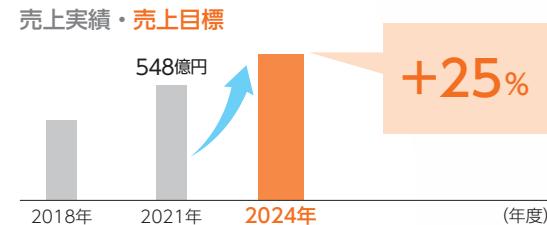
*フォトレジストに代表される半導体の製造において必要不可欠な材料のこと。



半導体用フォトレジスト

フルラインアップを活かして、シェア向上を図る

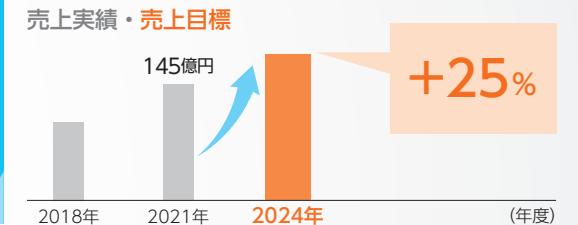
あらゆる世代で拡大する半導体需要に応えるべく、g線・i線フォトレジストはレガシー半導体向けで伸ばし、KrFフォトレジストは先端ロジック、3D-NANDから汎用デバイス向けまで幅広く提供し、ArFやEUV等の最先端フォトレジストはさらなるシェアの向上を目指します。



高密度実装材料

最先端技術で、次世代ニーズを捉える

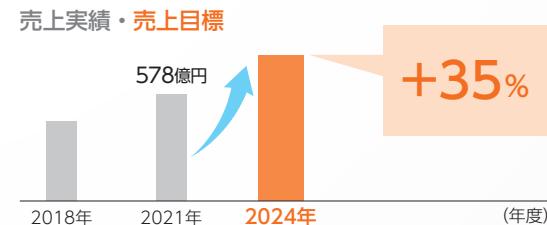
パッケージ材料は最先端技術をけん引するパンプ用フォトレジストや再配線用フォトレジストの採用獲得を目指します。MEMS材料は高周波デバイス向けで拡販し、次世代ニーズへの対応と同時に世界の大手電子部品メーカーへの採用を目指します。



高純度化学薬品

お客様との協業で需要増加に応える

高純度化学薬品はアジアや北米で拡販するとともに、先端プロセス向け製品への需要増加に応じていきます。また、先端プロセス向け製品として次世代のクリーンソリューションやシンナーの開発を大手のお客様との協業により推進していきます。



装置事業

スピーディーな製品開発で、市場ポジションを確立

重要なお客様のいるアジアでの顧客密着戦略を深化させるべく、お客様の要望をタイムリーに取り入れ、効率的な開発につなげられる体制を構築していきます。また、創出した製品群のビジネスを推進し、安定的収益を見込める装置市場での地位獲得を目指します。

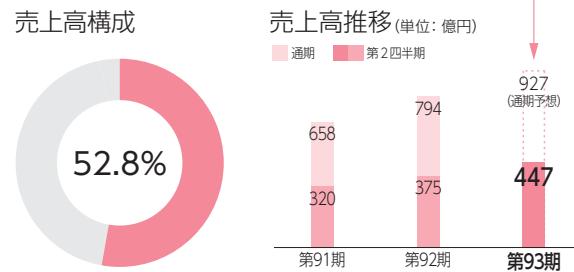


材料事業

エレクトロニクス機能材料



部門別売上高 **447億円**

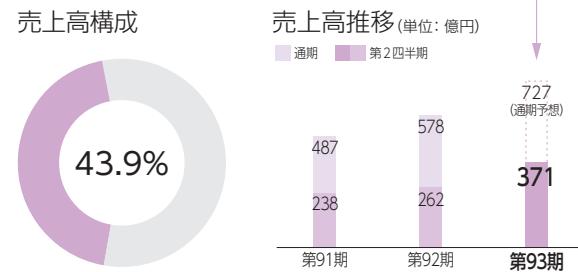


売上高は、前年同期を上回る447億円(前年同期比19.0%増)となりました。これは、中小型液晶パネルの需要環境が変化したことにより、ディスプレイ用フォトレジストの売上が減少したものの、5GやIoT等の普及や、データサーバー向けなどの旺盛な半導体需要に支えられるなかで、円安に推移する為替による効果も加わり、半導体用フォトレジストなどの販売が引き続き好調に推移したことが主な要因です。

高純度化学薬品



部門別売上高 **371億円**



売上高は、前年同期を大幅に上回る371億円(同41.6%増)となりました。これは、半導体製造プロセスに使用される半導体用フォトレジスト付属薬品の一部製品の売価調整だけでなく、円安に推移する為替による効果も加わったことが主な要因です。

装置事業

プロセス機器

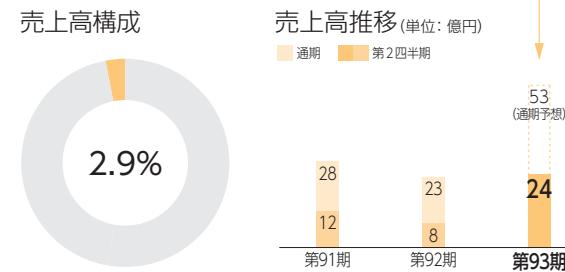
主要製品

- ウエハハンドリングシステム
- プラズマアッシング装置



ウエハハンドリングシステム (先端パッケージ向け)

部門別売上高 **24億円**



売上高は、24億円(同182.0%増)となり、営業利益は、前年同期比4億円改善し、2億円となりました。これは、高機能、高性能な半導体を実現するシリコン貫通電極形成プロセスなどに使用されるウエハハンドリングシステム「ゼロニュートン®」等の受注済み製品の検収が進んだことが主な要因です。

製品紹介

パッケージ用フォトレジスト

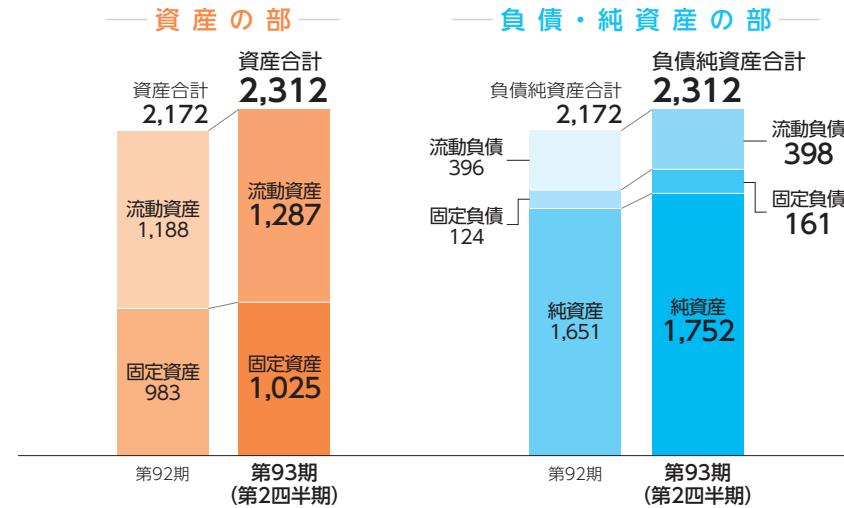
スマートフォンに代表される半導体素子・電子部品が搭載される電子端末製品の高性能化に加え、軽量化・薄型化・小型化への取り組みは、私たちの想像を超えるスピードで進んでいます。この軽量化・薄型化・小型化と省電力、高速通信の実現に極めて重要な役割を果たすのがパッケージ技術です。当社グループは、最先端のパッケージ技術をはじめ、各種実装プロセスに最適なフォトレジストを開発、製品化しています。

当社グループは、最先端パッケージ技術の進歩に寄与するパッケージ用フォトレジストをお客様のニーズに合わせて開発・提供することで、半導体のより一層の進化に貢献してまいります。



連結貸借対照表の概要

(単位:億円)



資産の部

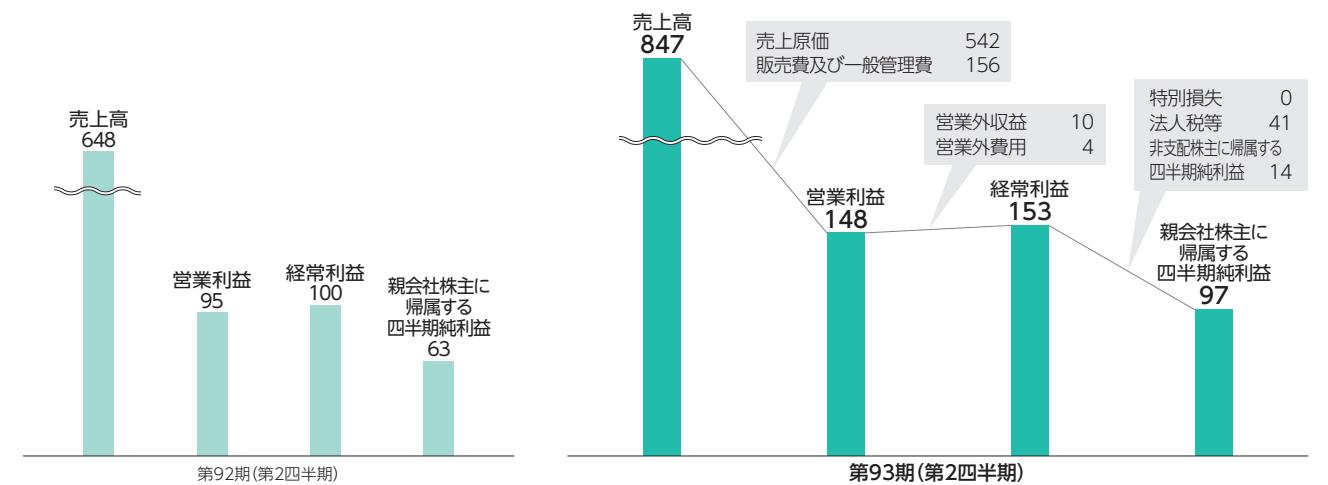
- ・棚卸資産と受取手形及び売掛金が増加したことにより、流動資産が増加。
- ・設備投資により有形固定資産が増加したことにより、固定資産が増加。

負債・純資産の部

- ・支払手形及び買掛金と設備関係未払金が増加したことにより、流動負債が増加。
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益を確保したことや為替換算調整勘定が増加したことにより、純資産が増加。

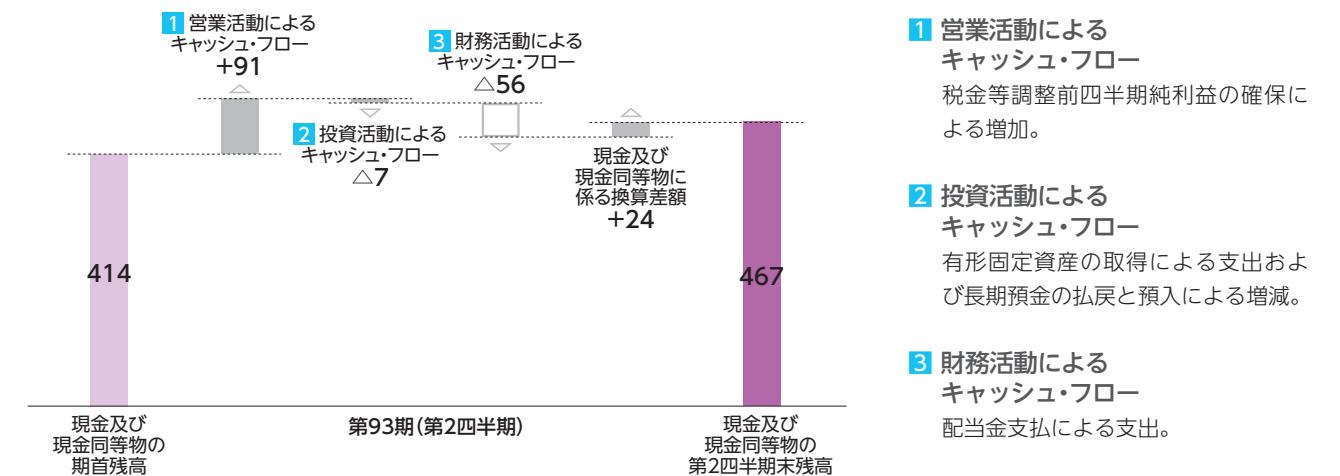
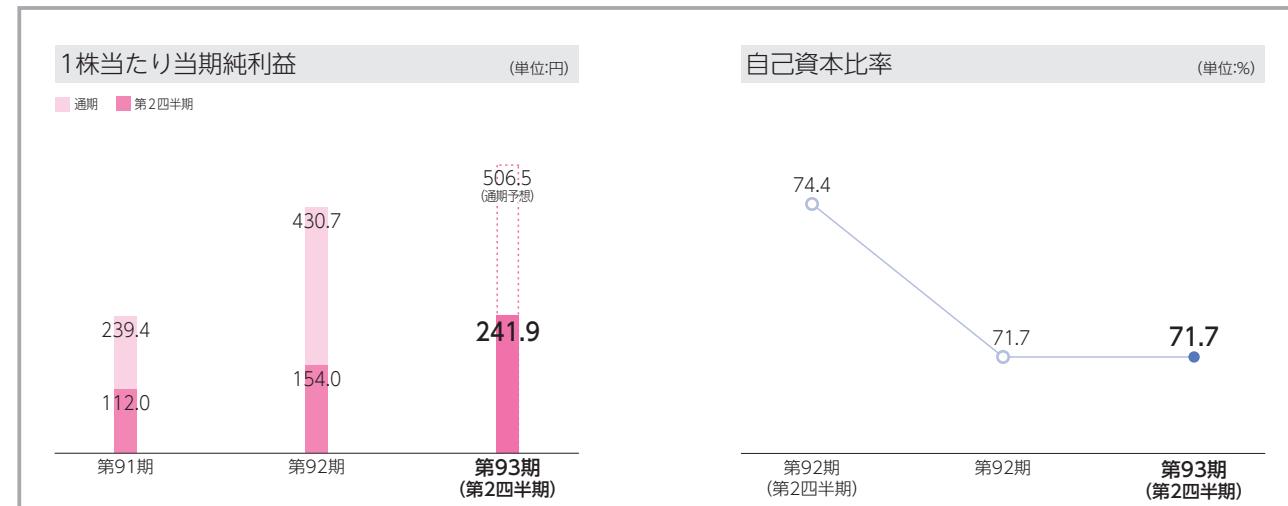
連結損益計算書の概要

(単位:億円)



連結キャッシュ・フローの概要

(単位:億円)



TOKの企業価値

インテル コーポレーションから
[EPIC Distinguished Supplier Award]を受賞

当社グループは、世界的な半導体メーカーであるインテル コーポレーション(米国)から栄誉あるEPIC Distinguished Supplier Awardを受賞しました。これは、同社に対する当社グループの卓越性、パートナーシップ、包括性、継続的な品質向上への取り組みが高く評価されたものです。

これを励みとし、今後もさらに技術や品質の向上に取り組み、豊かな未来、社会の期待に化学で応えていきます。



ESG投資のための株価指数の構成銘柄に採用

当社は、ESG投資のための株価指数である「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」および「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄に採用されました。これにより、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が選定した3つのESG指数全てに採用されたこととなります。

前者はFTSE Russell社が設計した指数であり、ESGについて優れた対応を実践している企業を選別して構成されています。後者の2つはMSCI社が開発した指数であり、女性の活躍推進に優れた企業とESG評価が優れた企業をそれぞれ選別しています。

また、損保アセットマネジメントが運用する「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄にも採用されており、今後も事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。



TOKのIR活動

「統合レポート2021」を発行

当社グループの事業活動をステークホルダーの皆様により深くご理解いただくための冊子「統合レポート2021」を8月に発行しました。本冊子では、感染症リスクや気候変動リスク、地政学リスクなどの様々なグローバルリスクが顕在化し、将来を予測することが困難な状況が続いているなか、当社グループのパーパス(存在意義)をいかに実践していくかを紹介しています。

本冊子は当社ウェブサイトでもご覧いただけます。



<https://www.tok.co.jp/ir/library/annual>

株式の概況／会社概要

(2022年6月30日現在)

株式の状況

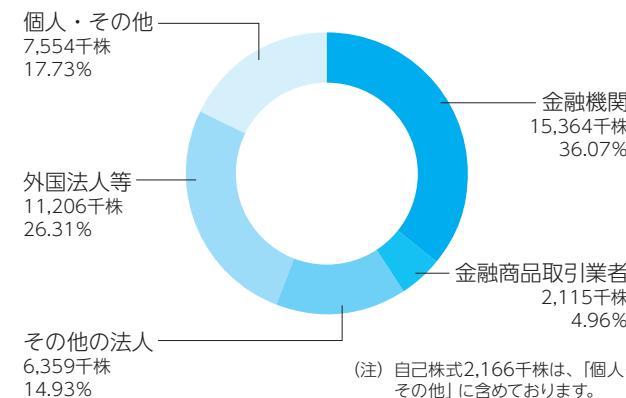
発行可能株式総数	197,000,000株
発行済株式の総数	42,600,000株 (自己株式2,166,763株を含む)
株主数	11,496名

大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,813	11.91
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,653	6.56
明治安田生命保険相互会社	1,826	4.52
NATIONAL FINANCIAL SERVICES LLC	1,446	3.58
株式会社三菱UFJ銀行	1,207	2.99
株式会社横浜銀行	1,026	2.54
公益財団法人東京応化科学技術振興財団	984	2.44
三菱UFJ信託銀行株式会社	953	2.36
三菱UFJキャピタル株式会社	860	2.13
東京海上日動火災保険株式会社	857	2.12

(注) 1 当社は、自己株式を2,166千株保有しておりますが、上記大株主から除いております。
2 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いた株式数(40,433,237株)を基準に算出しております。

所有者別株式分布状況



(注) 自己株式2,166千株は、「個人・その他」に含めております。

会社概要

社名	東京応化工業株式会社 TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.
設立	1940年10月25日
資本金	14,640,448,000円
従業員数	1,925名(連結) (当社グループから当社グループ外への出向者および嘱託者を除く)
本社所在地	〒211-0012 神奈川県川崎市中原区中丸字150番地 電話044(435)3000(代表)

役員

取締役および監査役

代表取締役	取締役社長	種市順昭	佐藤晴俊
取締役	取締役	水木國一	村上裕介
取締役	取締役	村上海宏	嶋土弘典
取締役	取締役	栗本柳和	関藤信生
社外取締役	取締役	安徳竹内	徳川春喜
社外取締役	取締役	梅原輝	

執行役員

※ 執行役員社長	台湾東應化股份有限公司 董事長兼總經理	種市順昭
専務執行役員	総務本部長	入木國一
※ 常務執行役員	営業本部長兼開発本部長	水野宏介
※ 執行役員	材料事業本部長 TOK先端材料株式会社 代表理事社長	村上裕一
※ 執行役員	新事業開発本部長	嶋海川裕介
※ 執行役員	プロセス機器事業本部長	鳴山浩興
執行役員	経営企画本部長	山本直樹
執行役員	経理財務本部長	高瀬正次
執行役員	上海帝奥科電子科技有限公司 董事長 トウキョウ・オーカ・コウギョウ・アメリカ・インコーポレーテッド取締役社長	大森基次
執行役員	TOK先端材料株式会社 代表理事副社長	金大森
執行役員	開発本部副本部長	辰野直樹
執行役員	営業本部副本部長	谷和幸
執行役員	材料事業本部副本部長	

(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しています。